



# 洗心

村山市立袖崎小学校  
学校だより  
No.15

令和7年11月27日発行

## 袖崎を歩き、袖崎を知り、袖崎を好きになる

地域には、歴史ある場所や施設、そして長く地域を見守ってこられた寺社など、子どもたちの学びにつながる“宝物”がたくさんあります。そして、子どもたちが普段歩いている道や、何気なく目にしている建物には、実はたくさんの歴史や物語が息づいています。

何度かお伝えしたように、今年度、子どもたちが地域に出かけ、地域の皆さまに見守られながら、実際に見て、触れて、聞いて、地域の魅力を発見する「袖崎たんけん」の取組を進めています。



夏の土生田方面の探検に続き、秋は、3,4年生が本飯田方面に出かけました。10月21日(火)は、以前1,2年生も見せていただいた牛舎におじゃまして、牛の飼育についてのお話をうかがいました。牛に興味をもった子が多く、興味津々で話を聞いたり、牛に触ったりしました。4年生の後藤優翔さんによれば、「つのはかたくて、耳はふさふさで、鼻・鼻の下はフェルトみたいな手ごたえでした。首の下

がたるたるしていました。見学していた時も、時々モーと鳴いていました。」とのことでした。次に、建北社太陽光発電所を見せいただきました。太陽光発電の仕組みは子どもたちには少し難しかったようですが、わかりやすく説明していただきました。また、もとは袖崎地区にあった会社だということや袖崎小学校の校舎を建てた会社だということ、今でも学校の屋根の雪下ろしを請け負っていることなど、たくさんのお話をお聞きすることができました。



10月24日(金)は、常照院や若宮神社、洗心会館、袖崎中央集荷場を見学しました。寺社では、本校の永井用務員さんから由来を学んだあと、お参りをしました。中央集荷場では、高く積みまれたお米にびっくり。何人かの子どもは、自分の家族や知り合いの方の名前が書かれた米袋を見つけて、うれしそうでした。4年生の森

月奏さんは、「ふくろに書いてある名前さがしがとっても楽しかったです。想くんのおじいさんの名前がありました。15000ふくろもあるとは予想外でした。袖崎集荷場が気になっていたので、行けてよかったです。」と書いていました。快く見学を受け入れてくださった皆様、本当にありがとうございました。

自分の住む場所のよさに気付き、地域の方とふれ合いながら学ぶ経験は、子どもたちの地域への愛着や誇りを育てる大切な学びです。これからも、子どもたちが“ふるさとを好きになる”活動を、地域の皆さまと一緒に広げていきたいと考えています。

実は、4,5,6年生も、総合の学習で袖崎地区のことを調べていて、クラブ活動で湯舟沢温泉に行く予定でした。ところが、直前にクマの出没情報があり、残念ながら叶いませんでした。また、別の機会にと考えてい



るところです。

## 育てるからこそわかる実りの価値

今年の栽培活動は、学校の畑で、植え付けから毎日の世話まで、できる限り子どもたち自身の手で進めてきました。

最初は「芽が出るかな？枯れないかな？」と心配そうでしたが、びっくりするほどあっという間に大きくなり、花が咲き、実がなり…特にランチルームから見える畑は、注目の的でした。

夏の暑さや水不足が心配されましたが、職員の支えもあって、なんとか乗り切ることができました。そして収穫の日。自分たちの手で育てた作物を手にした子どもたちの表情には喜びが溢れていました。

2年生は、ポップコーンの種をまいた時、料理した状態のポップコーンが実るのだと思っていたそうです。でも、栽培活動を経て、ポップコーンとはどのような植物なのか、どんなふうの実るのがよくわかりました。収穫し、乾燥させて、いよいよ調理です。鍋に油とポップコーンの実を入れ、ふたをしてしばらく待つと、ポンポン！という音が。おいしそうなポップコーンができました。子どもたちはいろんな味付けで楽しみ、他の学年

にもプレゼントしました。

3,4年生はサツマイモを育てました。収穫するときは、「ここにもあるよ！」「わあ、大きい！」と歓声を上げながら掘っていました。成長を見守ってきたからこそ味わえる喜びです。どうやって食べようかいろいろ考えて、イモブランに決定しました。サツマイモの裏ごしが大変で、四苦八苦していましたが、苦労した分、でき上がったときはうれしく、感謝していただきました。

みんなで味わったひと口は、ただ“おいしい”だけではない特別な味だったようです。自分たちで成長を見守り、育てることの手応えを感じた子どもたちは、「来年もやりたい！」と目を輝かせていました。

## 体を動かすって楽しい！器械体操強化月間

今月は、器械体操強化月間です。子どもたちは、体育の時間に、いろんな技に挑戦しています。練習を重ねるたびに少しずつできることが増え、それまで難しかった技ができるようになった瞬間には、ぱっと明るい笑顔の花が咲きました。その表情には、努力してきた日々への誇らしさと「できた！」という自信が感じられます。これからも挑戦する心を大切にしながら、一人一人が自分の成長を実感できる時間を積み重ねていきます。



## 洗心っ子の活躍！

☆村山市青少年健全育成標語コンクール

入選 6年 玉羽 鎧翔さん「開けようぜ 未来の扉 あと一步」

入選 6年 平山 紫月さん「手を取って 一緒に摘もう いじめの芽」

佳作 6年 森 星夏さん「いちばんは ありのままの じぶんたち」

!!おめでとう!!